

平成28年度第1回基山町まち・ひと・しごと

創生推進会議

(要点筆記)

日 時：平成28年7月12日（月）14時00分～16時10分

場 所：基山町役場 4階大会議室

出席委員：10人

森田昌嗣会長、永家重光委員、田口英信委員、天本正弘委員、實松尊徳委員
挽地正光委員、副島浩次委員（代理：田中善典）、宮地康晴委員
田中光一委員、酒井英良委員

欠席委員：4人

平瀬有人副会長、原憲一委員、芳野勇一郎委員、岡本哲男委員

事務局：3人

総務企画課：熊本課長、山本係長、下川主査

傍聴者：3人

1 開会

2 町長あいさつ

3 委員の委嘱

4 議事

(1) 基山町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

(2) 基山町まち・ひと・しごと創生総合戦略（修正案）について

(3) その他

事務局進行

1 開会

2 町長あいさつ

省略

3 委員の委嘱

町長により委嘱

4 議事

(1) 基山町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

事務局より説明

－質問等－

- ・資料のP7「7-2 地域ぐるみの子育て応援プロジェクト」の重要業績評価指標（KPI）の育児サポート利用会員の実績が2人となっているが、事前送付資料では77人となっている。
⇒正しい数値は77人である。実績値77人、H27年度達成率の値を96%と(77%)に訂正をお願いしたい。
- ・施策の達成率について、数値だけで包括して判断するのは難しいため、グラフ化して達成状況について判断できると良いのではないかと。
- ・KPIの基になる数値が適正なのかという項目がある。例えば、P5「4-2 観光資源活用プロジェクト」では、大興善寺の入園者数が76,000人、JRウォーキングの参加者数が2,500人となっているが、このプロジェクトに関わって、増えたという根拠が見えてこない。
- ・P3の取組内容に工場見学会、企業説明会、UIJターン、創業支援等の取組があるが、佐賀県でも工業高校出身をどのようにして佐賀県に残すのか、また、UIJターンで優秀な人材を佐賀県に引き戻すのかに力を入れており、同様の事業に取り組んでいる。佐賀県と基山町と協働でやった方が良いのではないかと思うが、基山町が単独でやるのか、佐賀県と協力してやっていくのか協議をしていただきたい。
- ・資料のP7「7-1 新たな命プロジェクト」のKPIの不妊治療助成件数について、基山町在住の人が不妊治療をする際に申請すれば助成が受けられるものであると思うが、里帰りしたときにも基山町の助成を受けられるのか。
⇒助成を受けられるのは、基山町に住所がある方に補助するものである。佐賀県でも補助をしているため、まずは佐賀県からの補助を受けていただき、県の補助後の残りの部分を町単独で一定程度の補助をしている。

- ・申請をされずに独自で治療をしているケースもあるのではないか。
 - ⇒手続きが必要であるため、知られたくない方は補助を受けられずにされている方もいるという気がしている。しかし、制度を作ってから徐々に申請者も増えており、懐妊して出産に至ったケースも出ている。
- ・P1「1-2 六次産業化推進プロジェクト」のKPIで六次産品の商品化されたのは、エミューカレーとエミューの羽だと思うが、現段階では、エミューの成鳥が4羽と子どもが25羽であるため、今後エミューの卵や油を利用して商品化して商品ベースに乗っていくのは、まだ先のことになるのではないか。
 - ⇒現在、商品化までは至っていないが、油を使った研究を行っているので、エミューの生産が軌道に乗ってくれば、六次産品として販売していくのは可能だと考えている。また、エミューが一番期待の大きいところであると思うが、エミュー以外にも昨年のチャレンジ交付金や今年のスイッチ交付金を使って、酵母菌の研究をしている。六次産品については色々な団体に呼びかけながらエミューだけでなく多方面からやっていく必要があると考えている。
- ・P1「1-2 六次産業化推進プロジェクト」のKPIに関して、六次産品の販売額の前年比が110%となっているが、平成27年度の実績についてはどうか。
 - ⇒平成26年度には六次産品の開発はしていなかったため、対前年比としての実績はないが、来年度以降に平成27年度開発した商品の販売額が増えていくのではないかと考えている。
- ・P1「1-1 特産品等販路拡大プロジェクト」の取組について、産業振興協議会の総会で、基山PA・ふるさと応援通販、基山健康宅配の3事業が1つの事業に統合されたので、今後のKPIについては、3事業を含めたKPIにするのかそれとも今後も継続して個別の数値をとるのか。
 - ⇒産業振興協議会の取扱としては1本化されたと思うが、今挙げている3事業に関しては、今後もそれぞれの売上額がでてくると思うので、それぞれの実績を追うようになると考えている。
- ・3事業については1本化されたため、ひと・もの・かねについては、それぞれの事業ごとに分配されるわけでもないため、今後それぞれの事業の収益は、按分するしかないため、数字の取り扱いについては注意をいただきたい。
 - ⇒平成28年度の結果により、来年の検証時に仮に1本に統合したところで評価をした方が良いということであれば、来年度に平成28年度の結果を踏まえて見直す必要があると考えている。
- ・現在のKPIが延べ参加事業者数や通販の参加事業者数となっており、利用した人のカウントとなっている。施策の取組のなかで、収益という部分が一番関わっている事業である。そのため、達成率は上がっているにもかかわらず、事業を突然辞めたということになると、何も知らない人達からすると何で辞めてしまったのか批判を受けかねないので、数字が一人歩きしないように気配りをしていただきたい。
- ・まち・ひと・しごと創生ということで、人口を増やそうということで理解をしているが、14項目の施策により人口がどれだけ増えたかというデータはあ

るのか。また、基山に住んでみたら、家賃の補助があったから利用したというケースと、家賃の補助があったから基山に住んだという区別のデータはあるのか。

⇒事業をやっていく中で、町内に住んでいたから家賃の補助を利用したのか、町外でPRした結果、基山町で1万円の補助があるので基山町に来たかというのは、申込段階で把握ができると思うので、申し込みの際に簡単なアンケートをとるなどして、実績を把握する必要があると考えている。全体的な話では、それをどの項目やれるのかというのは分からないが、やれる部分については、そういった手法や町民を何名か抽出したなかでのアンケート調査というのを今後は検討していく必要があると思っている。特に平成27年度の評価に関しては、計画を立ててから半年程度ぐらいの結果になっており、平成28年度から実施していく事業もあるので、今年度からの実績の評価が非常に大切になってくると思っている。

・細かい14項目の施策を考えているため、担当課ごとにアンケートやヒアリングするなどして、こんな取組をしたから、こんな効果があったというようなことは把握したいので集約をお願いしたい。

・P10「9-2 防災対策強化事業」で防災研修実施回数が1回、訓練参加者数が492人となっているのは、消防団の春と秋に行っている訓練だけか。それとも、地域防災リーダーの育成研修が平成27年度に行われたのか。

⇒昨年度の研修としては、佐賀県の消防防災課に来て頂いて、区長様方に自主防災組織についての研修を1回していただいている。訓練参加者数としては、消防の訓練の2回と2区で土砂災害等に関連して避難訓練を実施した回数を計上している。今後、自主防災組織を強化していくためには、リーダー研修をやっていく必要があると思っているが、現状として、今のところ計画はしていないが、どの時点かで実施をしていきたい。

・防災リーダーというのは、防災士の研修を受けた後に、試験を受け資格を取った人が、県から自主防災リーダーとして委嘱されている。基山町でも20名程度委嘱されているが、全然活用されていない。再度研修するなどして、活用した方が良いのではないか。

⇒要望として承りたい。

・P10「9-2 防災対策強化事業」の防災研修実施回数について、リーダー研修が1回だと思うが、実績が分かるように資料とする必要があるのではないか。

⇒地域防災の各地区のリーダーとして各区長さんがおられるので、そういった意味でのリーダー研修の一環という事で1回を計上している。

・P14「14-1 高齢者支援事業」に⑥徘徊高齢者の登録制度の推進と声掛け訓練（徘徊模擬訓練）を定期的実施するとあるが、先進地の大牟田市では徘徊という名前は使わないということになっていたと思う。基山町でも訓練の名前を変えて実施したが良いのではないか。

⇒実際の訓練のときには、単純に声掛け訓練という文言を使っている。徘徊高

齢者というのは、一つの制度的な部分での名称であるため、訓練のときには配慮して使いわけるようにしている。

- ・P5「4-3 観光案内の見える化プロジェクト」のKPIの設定が案内板設置箇所数となっている。この項目は交流人口を増やしていこうという内容であるため、案内板を設置して観光客の満足度が増えたのか、観光客が増えたのかどうかを数値目標にした方が良いのではないかと。設置数であれば町の予算があれば設置できるため、担当課と協議して見直したが良いのではないかと。また、今年度の達成率が100%を超えた項目が多いため、数値目標を再度見直さなくて良いかということについても担当課と議論していただきたい。議論していただくことで、もっと良い取組ができると思う。

(2) 基山町まち・ひと・しごと創生総合戦略(修正案)について

事務局より説明

—質問等—

- ・P15「10-1 住まいるプロジェクト」のKPIが残存農地の宅地開発面積となっているが、残存は削除になるのではないかと。
⇒残存を削除させていただきたい。
- ・P20「14-3 楽しいシニアライフ」のKPIのパソコン・タブレット教室受講者が500人(累計)となっているが、累計ではなく延べ人数ではないかと。
⇒累計ではなく、開催年度の延べ人数になるので、延べ受講者数に訂正をさせていただきたい。
- ・今回、KPIが修正されているが、この他にも平成27年度の実績で100%を超えている項目がいくつもあるので、修正すべきものは修正すべきではないかと思うため、修正したものを委員の方へ送付後に、ご意見等あればお伺いして修正をしたが良いのではないかと。
⇒先ほどの進捗状況のなかでも、既にKPIを達成しているが、変更していない項目もあるため、もう一度検討させていただいて、最終的に、KPIの決定をしていきたいと考えている。修正後については、改めて資料を送付させていただきたい。
- ・P20「14-4 基山版CCRC事業」のCCRCの解説が入っていないので、意味が分からない。用語解説を入れたが良いのではないかと。
⇒CCRCの用語解説を記載するようにする。
- ・P20「14-4 基山版CCRC事業」のKPIのボランティア団体登録者数というのは、ボランティア団体を増やすということか。
⇒ここで掲げているボランティア団体登録者というのは、将来的にサービス付き高齢者向け住宅等が建設されたときに、そこでお手伝いいただく方の登録者を増やしていきたいということで、今のところどの時点で建設になるか未定であるため、当面10人ということでKPIの想定をしている。
- ・平成31年度までは、いつから始めるのか分からないのか。

- ⇒具体的にどの年度からというのはこれから計画を立てていくようになる。
- KPIの設定については、根拠を示していただけなのか。
⇒前段の進捗状況のなかで、色々ご指摘をいただいたので、KPIの設定が今のままで良いのか併せて見直しをかける必要がある。再度、検討を行い、案が出来次第、委員様方に送付をさせていただいて、ご意見があるようでしたら、ご意見をいただいて決定をしていくという形でさせていただきたい。
 - P8「3-3 SGK人材（戦略的シルバー）を活用した地域活性化事業」の取組内容について、地産地消の促進と住民間のコミュニティ形成を支援するとあるが、地産地消の促進とはどういう取組か。
⇒現在、農協では朝市を水曜日と土曜日で開催をしているが、それ以外の日をSGKのグループで運営できないかの検討をしている。また、けやき台の朝市がけやき台の4区合同で運営をされているが、なかなか運営のスタッフが集まらないということで、SGKが協力できないかの検討をされている。地場でとれたものを朝市で販売できないか検討されているので、取組としてあげさせてもらっている。
 - P10「5-1 自治体イベント交流プロジェクト」の取組内容で、「①他自治体にイベント参加を呼びかけ、相互連携したPR活動を図る。②他自治体のイベントにも参加し、効果的な町のPRを行う。」とあるが、KPIとしては「ふ・れ・あ・いフェスタ」交流人口で10,000人となっている。「ふ・れ・あ・いフェスタ」に参加した方の大半は町民なので、交流人口にカウントしてよいのか。また、KPIと取組内容の内容がマッチングしていないのではないかと。
⇒ご指摘のとおりであるため、見直しを行わせていただきたい。

（3）その他

－意見等－

- 郵便局では、町内外の方と話をすることが多いが、基山駅から見えたところにお洒落なアパート、マンションがあったら住みたいという話をよく聞いている。また、けやき台の土地が狭い、駐車場やスーパー、ファミレス、ファーストフード店が無いということを言われる。総合戦略でも、それに関することが入っていない。ファーストフード店を作るということを総合戦略に盛り込むことは簡単にはできないと思うが、お金をかけずに何かできることがないか。
⇒そういったご意見をいただいて、少しでも町外の方に来て頂き、町内の方がいつまでも住み続けたいまちをめざしていくのが、この戦略のひとつでもあると思うので、直接的に盛り込むことよりも、そういった情報により、少しでもそれに近づくことが大切だと思うので、そういった努力は行っていきます。
- 草スキーの国際大会の計画や神話めぐりツアーに関する記載がない。基山といえば草スキーのイメージがあるので、せっかくの資源を活用するような方

法を観光協会や産業振興協議会でもしていたが、総合戦略に記載していないのか。

- P8「3-2 観光資源活用プロジェクト」に記載されている。観光協会の理事会のなかで文言が神社めぐりという表現をされていたので神話めぐりとか夢を持てるような若い人たちが気に留めてもらえるような言葉にした方が良くということ提案をしている。
- 草スキーがどこにもでてこないが、草スキーの世界大会が基山町で開催されるため、観光の一つの資源として草スキーを入れた方が良い。また、基肆城という言葉も「自然と歴史・文化・スポーツを活かしたまちづくり」のなかで記載されていないため、もっと施策のなかで使っていったアピールをしたほうが良い。
- 草スキーと基肆城の他に、鳥栖市には「あずまや」や「御手洗の滝」があり、夏には多くの人が集まっている。基山町にもキャンプ場があるため、キャンプ場を活用するような施策があったら基山町に魅力が増え、人口が増えるのではないかと。

⇒キャンプ場に関して言うと、正式に決定していないため、この場ではっきり言えない部分があるが、かなり老朽化しているためキャンプ場として活かしながら他の用途として活用できないかの検討をしている。利用者としては、キャンプ場というよりバーベキュー場みたいな形になっているので、それを活かす方法もあるため、施設の老朽化と併せて総合的にやっていく必要がある。

- 基山町にはプールがないため、鳥栖市民プールに子どもを連れて行くという話をよく聞いている。是非、基山町のキャンプ場をうまく活用して、暑いときに水遊びしながら商品を販売するような施設を整備することで、基山町に住みたいと思うようになるのではないかと。

⇒お金がかかることはすぐには出来ないが、お金がかからないことは変えていきたいと考えている。キャンプ場の水は井戸水で何百メートルかボーリングして、何とか水を出している状態であり、水の問題もある。

～16時10分閉会～